

しまね学校図書館活用コンクール 応募票

学 校 名	松江市立島根小学校
学 校 長 名	繁浪 啓子 印
記載責任者名	
連絡先電話番号	(0852) 85 - 2018

() 読書活動	1 取組の概要					
	2 読書活動の資料・作品・写真等					
		活動等の名称	添付資料・作品等	添付数	活動中の写真の有無	
	1	お楽しみ掲示・開示 ナー	・掲示・開示コーナー等の記録(写真)資料① ・私のお気に入りの場所紹介集より(6年作品コピー)資料② ・図書館だよりより(コピー)資料③	3	有・無	
	2	めあてと読書記録	・めあてカードと読書記録(写真)資料④ ・読書の記録ファイルより(コピー)資料⑤ ・必読書とりんごの木(写真、コピー)資料⑥	3	有・無	
3	本の世界を楽しもう	・本の世界を楽しもう(写真)資料⑦ ・読書郵便(コピー)資料⑧ ・児童によるブックトーク他と感想(コピー)資料⑨ 2点	3	有・無		
4	アイデアいっぱい 委員会活動	・アイデアいっぱい委員会活動(写真)資料⑩ ・学級文庫の入れ替えカード(コピー)資料⑪ ・図書館キャラクター(コピー)資料⑫ ・読書週間の取り組み:親子読書他(写真コピー)資料⑬ 4点 ・図書館クイズ集(コピー)資料⑭ 4点 ・本のしりとり(コピー)資料⑮ ・図書祭りより:プログラムより(コピー)資料⑯	7	有・無		
() 学校図書館 を活用した 授業実践	1 取組の概要					
	2 学校図書館活用教育年間計画 ※どちらかに○をつけてください。 有 ・ 無					
	3 学校図書館を活用した授業実践の資料					
		単元名・資料名	学年	教科	添付資料等	添付数
	1					
2						
3						
4						

※ 読書活動または学校項図書館を活用した授業実践のうち、いずれか一つに○をつけてください。

しまね学校図書館活用コンクール取組の概要

学校名 松江市立 島根小学校

1 応募部門 ※ 応募する部門に○を付けてください。

(○) 読書活動部門

() 学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

○読書への興味関心を高める手だてを工夫し、計画的・継続的に読書活動を行うことで読書に親しむ子どもを育てる。

○子どもが主体的に読書活動に関わることを通して、図書館や本への愛着と自分への自信を育てる。

○本を通して、教職員・保護者・地域の方との交流を図り、図書館への協力や支援体制を築く。

1. お楽しみ掲示・開示コーナーの設営

本校図書館には、オープンスペース・図書室・資料室という3つ場所に書架を設置している。オープンスペースは、普通教室と特別教室を結ぶ広い廊下を共有しているため、1日に1回は全校児童が通る場所である。子どもたちが廊下を通る度に、「図書館は楽しい所」、「本っておもしろそう」と興味関心をもてるように、季節・行事・学習に関連のある掲示や図書・資料を開示するよう工夫した。

① 雰囲気づくりとしての看板・行事・季節等に応じた掲示の工夫

子どもたちが自分達の図書館を身近に感じられるようにするために、児童の考案した愛称をオープンスペースに掲示。広い掲示板や展示スペースを利用し、図書館に親しみや季節感の感じられる掲示・展示を行った。

② 新鮮な情報が発信できる開示コーナーの工夫

本への関心を高め、手にとって読みたくなるようなフレッシュな開示コーナーを工夫した。(新刊図書の紹介、図書委員会おすすめの本、先生のおすすめの本、学習に合わせた本、季節・行事に合わせた本)

③ 読書のしやすい環境整備

読書センターとして機能が充実するよう、畳コーナーや椅子カバー、テーブルクロス、マスコットをおくなどの雰囲気作りをしたり、本探しの目安となるよう日本十進分類表、分類表示を館内に大きく掲示するなど、読書しやすい環境を整えることに配慮した。

2. めあてと読書記録

一人ひとりが自分のめあてをもち、主体的に読書に取り組み、読み広げたり深めたりしていくように工夫した。

① めあてカードと読書記録

月ごとに「読書のめあてカード」を書き、図書室廊下に掲示。毎月の読書記録とともに、その月のめあての達成に応じて評価し、ふり返りカードに記入した。また、この毎月の記録を個人の「読書ファイル」につづり、自分なりの進歩がふり返られるようにした。

② 各学年必読書の設定と必読書カード

読書の幅を広げ、質の向上を図るため、各学年の必読図書10冊を選定。必読図書コーナーを設置し、一人ひとりに必読図書カードを持たせ、自分の学年の必読書や次に読むとよい本が一目で分かるようにした。

3. 本の世界を楽しもう

本に親しむ機会を計画的・継続的にすすめることで多くの本と出会い、心を豊かに育てていく場とする。また、友だちから友だちへ、親子、子どもと教職員間での共通の読書体験の場を設定し、読書を通じた仲間づくりを進めた。

① 大人から子どもへ

ア. くさぶえタイム：毎週金曜日8：20～8：40をボランティアによる読み語りを行う。上学年は、朝読書の時間とし、人ひとりが読みのめあてをもって、個に応じた読み物を選書し、静かに読書に親しむ時間とする。

イ. 全教職員による読み語り：校長、教頭、養護教諭、学校事務職員など、担任以外の教員も各クラスへ出向き、読み語りやブックトークを行う。

ウ. 外部支援団体によるお話の会

○ストーリーテリング：お話どんぐり、お話baumに協力を依頼。全学年で毎学期実施。

○地域の支援団体による紙芝居：地域の地雷廃絶支援ボランティアの方による紙芝居を上学年で実施、

オタワ条約への参加を呼びかけるちょうちょキャンペーンにも協力した。

② 友達から友達へ

- ア. 読書郵便：図書委員会が読書郵便ポストを作成し、全校児童へ呼びかけた。友だち、親子、子どもと先生が同じ本を読み感想を交わし合うことで本への関心が高まった。
- イ. ブックトーク：授業で学習した作者の本や関連したテーマの本を異学年に紹介し合い、読み広げにつなげた。
- ウ. 紙芝居・読み語り：6年生が1年生へ、図書委員が低学年へ、休憩や休み時間を使って紙芝居や読み語りを行った。

4. アイディアいっぱい委員会活動

主体的に図書館の活動に関わることで、本を通して心の交流を図り、図書館への愛着と自分への自信をつける。

① 学級文庫の選書と入れ替え

学級貸し出しBOXの作成と、毎月の学級文庫の入れ替えを図書委員会が担当。図書館と学級担任・児童とのつながりをもつことができた。

② 図書館キャラクター作り

図書館をより親しみのあるものにするために、キャラクター作りを楽しんだ。委員会児童の考案したキャラクターは、掲示物や図書祭りの景品等に利用した。

③ 読書週間の取り組み

ノーマディア週間や読書週間に合わせて、標語の募集やおすすめの本の紹介をした。

④ 図書館クイズ

本を読んだり調べたりしてできるようなクイズ作りと、クイズの実施。問題の提示やヒントの本の案内、賞品なども工夫した。

⑤ 図書祭り

年に2回、委員会児童のアイディアによる、読書・図書館を楽しむための祭り。物語の登場人物の仮装、宝くじ、サービス券、お笑い劇場、紙芝居、クイズラリー、手作りコーナーなど、ユニークなアイディアを出し合い、協力して活動を楽しんだ。

4 実践の成果

〇様々な工夫により子ども達が図書館に足を運ぶようになり、図書貸し出し冊数が、司書配置前に比べ、4.5倍に増えた。新1年生が入学するとすぐにオリエンテーションを行い、図書利用指導を行うことで1年生が頻繁に図書館に通うようになり、担任がついていなくても読書できる習慣がついてきた。また、高学年児童においても漫画から離れ、活字の本を手にする習慣がつき、内容的にレベルアップし、知的な高まりを喜ぶ姿が多くみられるようになった。

〇「図書館はいごこちいいですよ。」「なんかほっとするよ。」という声が多く聞かれ、子どもに心の落ち着きを与える場になってきた。

〇児童自らが図書館の仕事に興味関心を持ち、本を読んでクイズを作成したり、学級貸し出し用の選書ができるようになったり、下学年に読み語りをしたり、読書郵便を通して感想を交換したり等、主体的に図書館や本に関われるようになった。楽しく生き生き活動する図書委員の様子を見て、下学年や図書委員以外の児童から、「図書委員会に入りたい。」という意欲的な声が聞こえている。

〇学級文庫の本を毎月入れ替え、常に新鮮な本を子どもの傍に置いたり、学習関連の図書を年間計画や希望に基づき学級に届けたり、学習の成果を展示掲示したりすることで、授業の深まりや広がりにつながるよう支援ができた。また、学校行事・文化・季節関連の本をリアルタイムに開示することで、本への関心を身近に感じさせることができた。

〇図書利用が増えるにつれ、本の痛みが多くなり司書一人では補修等に追いつけなくなってきた。子どもがこれほど利用しているなら援助しようと、今年度は、図書整備ボランティアの会が立ち上がったり、PTA活動として整備資金作りの為にバザーを開催するようになったりと、保護者・地域の協力・支援を得ることができるようになった。

※A4判で1～2枚にまとめる。